

一級河川球磨川水系川辺川ダム建設 事業に係る土地収用法第23条第1項 の規定に基づく公聴会における公述

令和7年9月6日

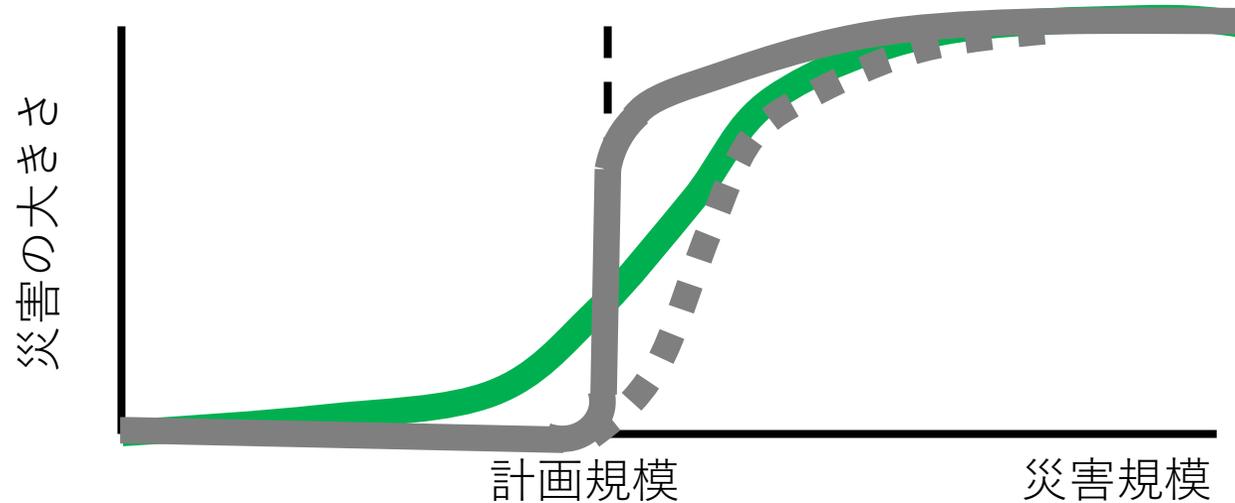
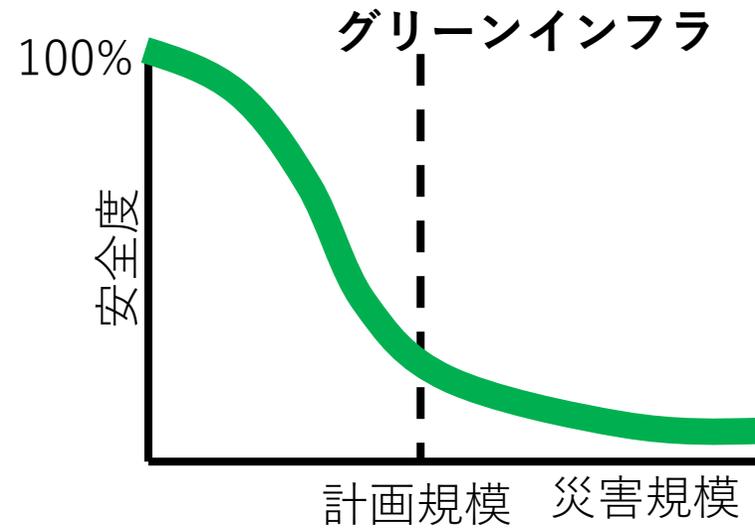
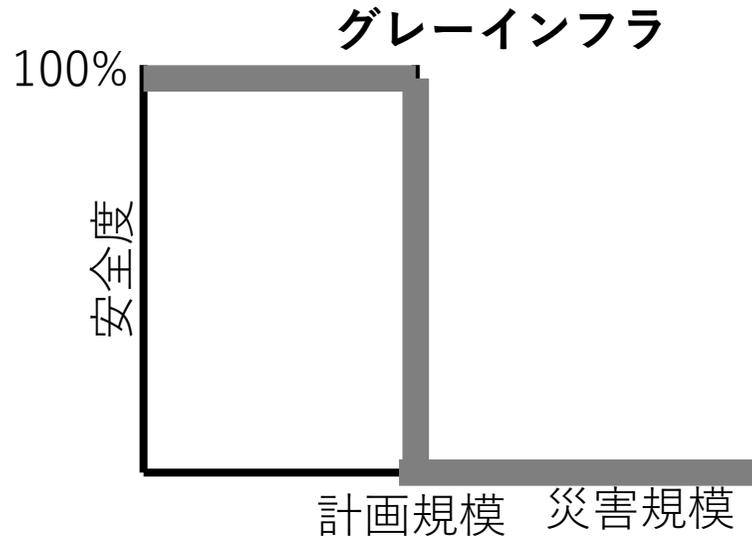
(熊本県球磨郡あさぎり町)

趣 旨

本事業については、水害リスク低減効果の確実性、環境影響評価レポートの信頼性、そして地域住民が求める環境との乖離といった課題があります。それらについて、住民との十分な対話や合意が得られていません。

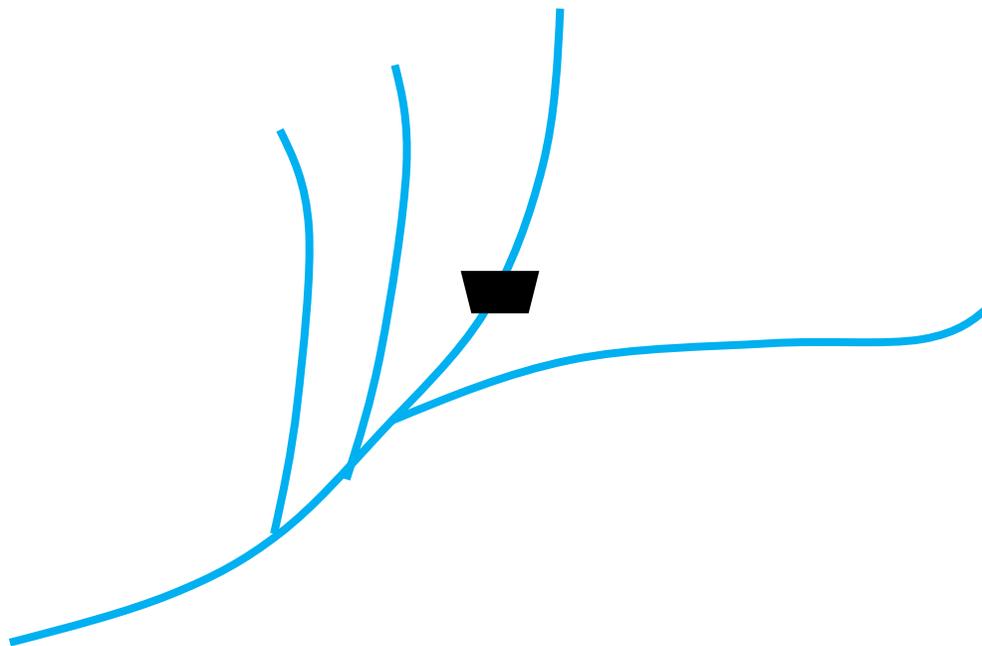
特に、水害リスクの低減効果や環境影響について、一面的で断定的な説明がなされているため、事業全体としての公益性を適切に判断することができません。

グレーインフラの特徴（概念）



グレーインフラ、グリーンインフラの図はOnuma and Tsuge (2018)、中村(2018)をもとに作図

空間的な問題（概念）



流域内の降雨の偏りは？

- 事業効果の説明が、状況の一部情報に限られている。起こりやすいことから、最悪の場合に起こりうることまで、幅をもって示すことが必要である。それを踏まえて、住民と合意をはかることが大切である。

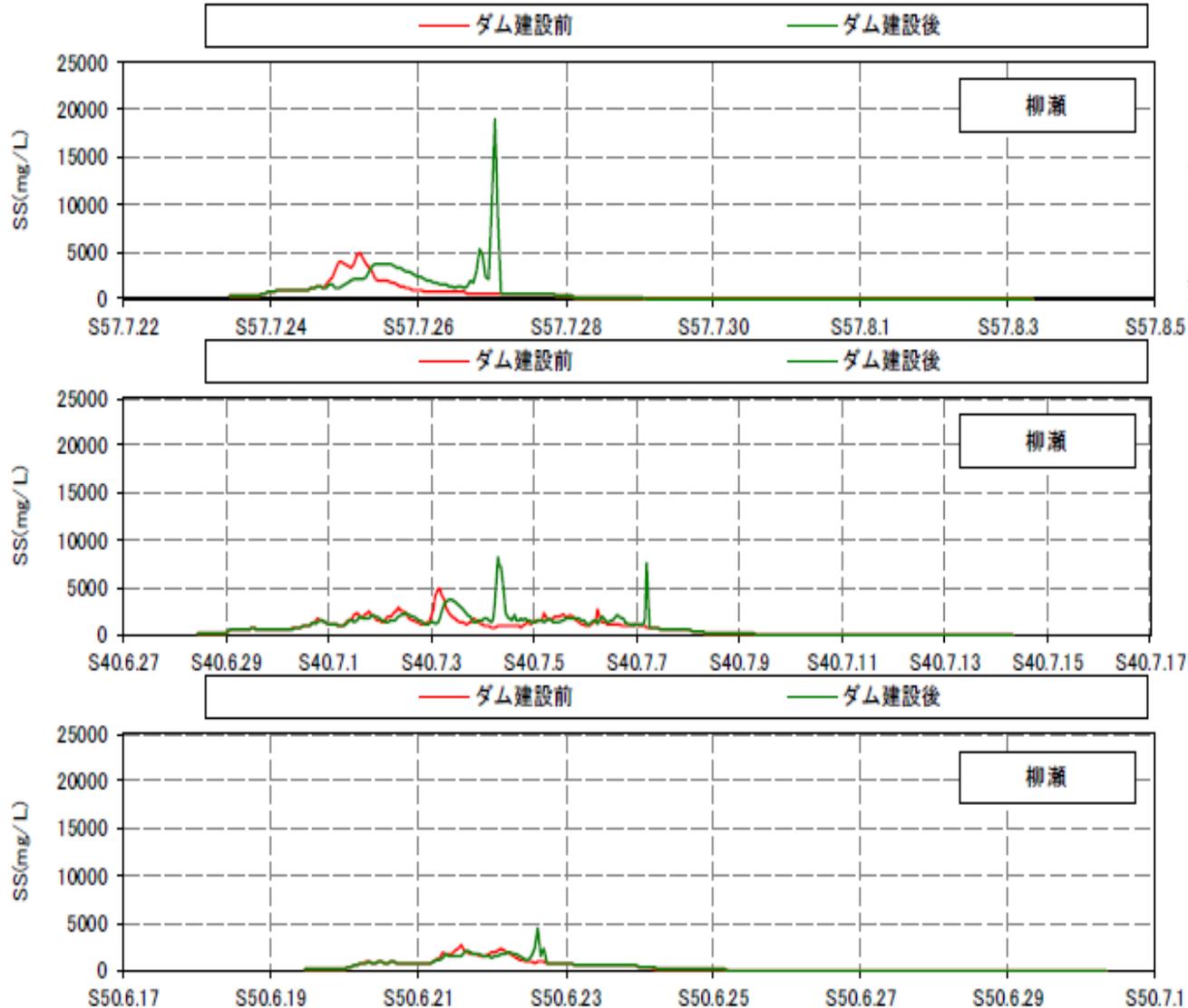
- 住民が被災直後のように十分に考えられない状況で重要な決定をすることは適切でない。

環境影響の評価とその提示における課題

濁りの生態影響

斜面の水没問題

環境影響評価における予測（にぎり）



評価の指標
・環境基準(SS25mg/L)の日数
・最大・最小・平均

図 7.2.4-162 主要3洪水のSSの時間データの予測結果（柳瀬地点）

関連する環境要素の抽出

要素変化の予測

生物の個体への影響

生物の個体群への影響

群集や生態系への影響

環境影響の評価とその提示における課題

- 影響の要因（要素）抽出の粗さ
- 要因となるものの変化に対して、生物への影響が楽観的。
- もっとも起こりやすい事象、最悪の場合に起こりうる事象を幅をもって示す必要性
- 達成できない場合にとるべき対応の提示
- 上記を踏まえた住民との合意形成

住民が求める環境からの乖離

- 川とは何か？
- 清流とは何か？
- 川と人の関係はどうあるべきか？

河川整備計画における複数案比較の課題

- 配慮レポートでは、複数案比較を行っていない。整備計画において、環境を含めて複数案比較をおこなったとされている。
- 整備計画では、すでに事業が進んでいるので、変更は難しいとのみ記述
- 持続的な地域のために必要な環境の指標と閾値は？

ダム の位置については、既に工事が相当程度進捗している状況において、既往計画（貯留型）と位置や規模等が異なるダム（軽微な変更等は除く）を建設することは、地域住民の生活への影響や事業の効率性の観点等から現実的に難しいため、既往計画と同様、相良村四浦とします。また、総貯水容量については、「球磨川水系河川整備基本方針（変更）」において示された洪水調節量を確保するためには、既往計画と同程度の容量が必要となることから、既往計画と同程度の約 13,000 万 m³とします(表 5.4)。

趣 旨

本事業については、水害リスク低減効果の確実性、環境影響評価レポートの信頼性、そして地域住民が求める環境との乖離といった課題があります。それらについて、住民との十分な対話や合意が得られていません。

特に、水害リスクの低減効果や環境影響について、一面的で断定的な説明がなされているため、事業全体としての公益性を適切に判断することができません。